

株式会社イマナガ
2015年 CSR報告書



本報告書は、株式会社イマナガのCSR（企業の社会的責任）に関する考え方や取組みについてステークホルダー（利害関係を有する方々）の皆様にはわかりやすくご報告し、ご理解いただくことを目指しています。

弊社では、このCSR報告書以外にもホームページや公益財団法人産業廃棄物処理振興財団の産廃情報ネットにてさまざまな情報を更新しております。

WEB サイト

公益財団法人産業廃棄物処理振興財団の産廃情報ネット

<http://www.sanpainet.or.jp/>

株式会社イマナガ ホームページ

<http://www.imanaga-r.co.jp/>

対象期間

2015年度（2014年8月1日～2015年7月31日）まで

対象組織

株式会社イマナガ

発行時期

2013年8月（初回）

2014年8月（2版）

2015年8月（3版）

【目次】

基本指針・環境方針	1
トップメッセージ	2
会社概要	3
組織体制・ISO14001：2004への取組み	4 - 5
CO ₂ 排出量の把握	6 - 7
デジタルタコグラフ設置車両の燃費	8
従業員教育（外部）	9
従業員教育（内部）	10 - 11
太陽光発電の状況	12

基本指針・環境方針

基本指針

(株)イマナガは、廃棄物の資源化・有効利用を継続して実行することを最終目的とし、廃棄物を適切に処理することによって環境への悪影響を低減し、処理技術の確立に努め、収集運搬から中間処理及び容器包装リサイクル事業まで一貫したシステムによる再資源化 100%を目指し、循環型社会づくりに貢献する事業活動を行います。

環境方針

1. 事業活動において、環境側面を意識し廃棄物の資源化・有効利用、廃棄物の処理に係わる環境への影響を自主監査し、環境負荷を低減します。
2. 廃棄物の処理に係わる適切な技術の開発、実行、改善を継続的に実施し、省資源、省エネルギーなど、環境汚染の予防に務めます。
3. 環境関連の法規制、その他の要求事項を順守し、環境汚染物質などの排出については自主基準を定め、確実に環境保全に努めます。
4. 事業活動において、環境目的及び目標を設定し、継続して見直し改善します。
5. 環境保全活動を通じて、地域社会に積極的に貢献します。
6. 環境方針は全従業員及び当社へ係わる事業者にも周知し、一般に公開します。

改訂 2006. 1. 15

トップメッセージ

平成 12 年に成立した「循環型社会形成推進基本法」という法律により、廃棄物処理は大きく変化しており、事業者責任の明確化や廃棄物を適正に処理することを基本とした法体系だけではなく、循環資源の利用を促進し、発生量の抑制・再使用・再生利用・熱回収・適正処分と処理の優先順位を規定しています。

昭和 30 年代以降の高度経済成長期から、わが国では大量消費の形が出来上がっていき、日本人の美德でもあった物を大切に作る意識から、新しいものを購入し古い物は廃棄するといった簡単な図式が出来上がっていきました。また生産を優先するため、安全対策を後回しにするという事態も起こりました。そんな中で成立したこの法律では、リサイクルを中心とし、製造・処理にかかる環境負荷をいかにして低減するかという問題を提起しました。私は地球に住んでいる人間として、地球環境を守るという信念から、少ない資源を有効に利用し廃棄物を 100%再資源化するという目標を立てたのです。

廃棄物の排出量は、一般廃棄物も産業廃棄物も共に年々少しずつ減少しており、一般廃棄物について北九州市は分別せずに無料回収という方法から、指定袋を購入し各家庭で分別しリサイクルできるものは回収箱に持ち込むという流れが基本となりました。

産業廃棄物についても、リサイクルできる単一種類のものは有価物として搬出し、複合品など、中間処理を行わなければリサイクルできないものについては、弊社等の中間処理業者に搬出します。中間処理業者は、廃棄物の分別・減容・安定化などの処理を行います。リサイクルや適正処理を進めるためには中間処理は重要で、最終処分業者に直接持込できないものを細分化・選別します。平成 16 年から稼働している MR 工場では、少量ですが処理後廃棄物の製造を行い、容器包装リサイクルの再生処理事業者としてペレットやインゴットを製造し、再商品化製品を販売しています。

現在の取り組みとしては、廃プラスチック類の処理施設の処理能力を増加し、廃棄物の受入に無理のないように「廃棄物処理法第 15 条に規定する廃棄物処理施設」として申請を行っています。

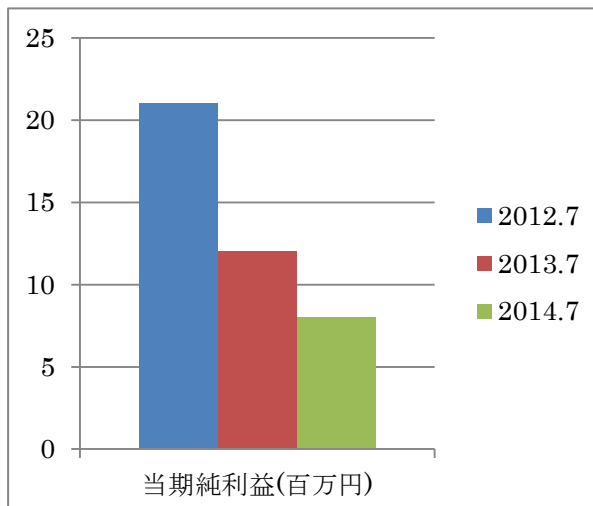
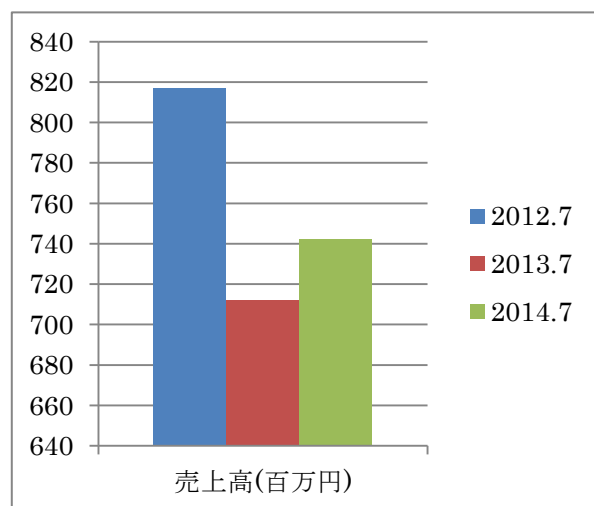
また、昨年 8 月に設置した映像記録型ドライブレコーダー搭載デジタルタコグラフ「DENS O ドライビングパートナー」は、設置後一年がたち運転手にとってエコ運転を行うと評価が上がるという目標があるため、燃費向上と事故抑制に目覚しい効果を挙げています。

弊社の事業活動には、地域の方々のご理解ご協力が欠かせません。また弊社に係わるすべての企業の皆様のご協力がなくては、お客様に満足していただける事業は行えません。環境保全活動やリサイクル事業を通じて社会に貢献する企業として、皆様の信頼にお応えすることが、弊社の発展に繋がると確信しています。これからも皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。デジタルタコグラフを装着した車両については、今まで以上に安全・エコに配慮した運行を行っております。交差点等ゆっくりとした走行を目指しておりますので、よろしくお願い致します。

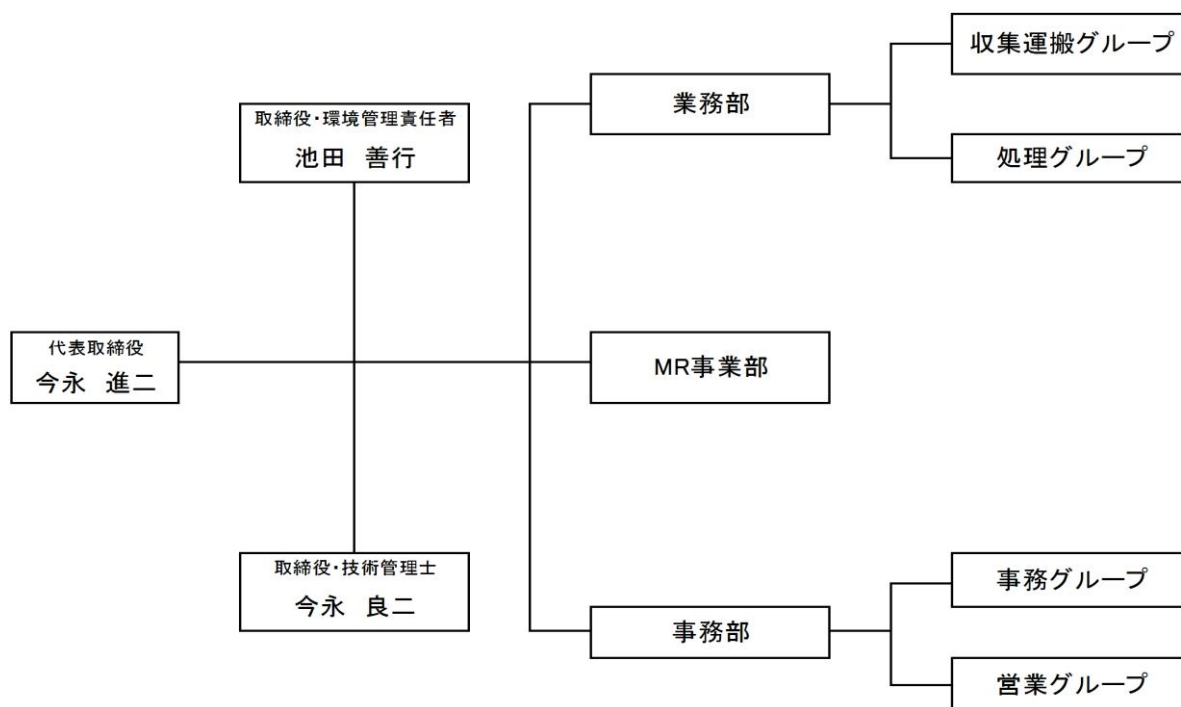
会社概要

商号	株式会社イマナガ
所在地	〒800-0115 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 2 号 TEL093-481-5097 FAX093-481-5098 Mail : info@imanaga-r.co.jp
代表者名	代表取締役 今永進二
役員	取締役 池田善行 取締役 今永良二 監査役 今永洋子
従業員数	44 名
工場所在地	本社工場・第一工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 2 号 第二工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 38 番 1 号 MR工場・MR第二工場 福岡県北九州市門司区新門司三丁目 41 番
資本金	50,000,000 円
ISO14001 認証番号	JQA EM-1520 (2001 年 4 月 13 日登録)
取引銀行	福岡銀行 門司駅前支店 北九州銀行 門司支店

売上高と当期純利益の 3 年間の推移



株式会社イマナガ組織体制 (平成 2015 年 5 月 1 日改訂)



ISO14001 : 2004 による環境への負荷低減の取り組み(2001 年 4 月 13 日登録)

期間	重点目標
～2003. 7. 31	廃棄物のマテリアルリサイクル推進、各燃料の効率的使用のためのデータ作成・自主基準値作成
2001. 8. 1～2002. 7. 31	各データ収集により把握した基準値をもとに目標値を決定し、有効的なマテリアルリサイクルを推進
2002. 8. 1～2003. 7. 31	廃棄物のマテリアルリサイクルは目標値を大きく超え、設備の導入や分別精度にも展開
2003. 8. 1～2006. 7. 31	電気の効率的な使用、燃料の効率的な使用、紙の有効利用
2006. 8. 1～2009. 7. 31	廃プラスチック類のマテリアルリサイクル推進・各種燃料使用料の低減、労働者の安全衛生確保、グリーン購入法推進
2009. 8. 1～2012. 7. 31	廃棄物のマテリアルリサイクル推進、顧客先管理台帳による一元化(契約書、収集運搬、処理)、従業員のリスクアセスメントへの取り組み
2012. 8. 1～2015. 7. 31	前期までの取組を継続 従業員一人一人の教育による意識の改革と視覚教材を使用した教育訓練
2015. 8. 1～2018. 7. 31	G マーク取得に向けての取組み等 ISO14001 2015 規格改定に向けての取組み

現在までの取組の問題点

2001年より取り組んできた省資源・省エネルギーの推進について、全社的な取り組みとして通常の業務において、電気使用の把握を行っておりますが、廃棄物処理業者として、廃棄物の処理量が多くなれば使用量が増え、廃棄物の種類により負荷のかかり方が違い、使用機械の稼働状況によっても変動する為、前年と比較する事が非常に難しく、データ比較は出来ませんでした。又、電気使用量の突発的な変化の原因がつかめないままでした。

現在までの取組により変化したもの

電気の突発的な使用量の変化については、九州電力様の協力により計測機器をつけデータを取り、改善提案を出していただきました。まだ機器の設置には至っておりませんが、従業員の取り組み方に改善が見られました。施設については、定期的なメンテナンスや機械の消耗品の把握など現在までのデータをもとに、省力化できる活動を行いました。

又、収集運搬車両については昨年8月より、目で見える安全・エコ運転の取組として映像記録型ドライブレコーダー搭載デジタルタコグラフ「DENSOドライビングパートナー」を車両に設置し、収集運搬グループとしての活動を行い、燃費が向上しました。教育訓練を定期的に行い、環境負荷の低減を従業員が自発的に行えるようにしたいという試みでしたが、急ハンドル・急加速などを行うと映像で確認ができるため、無理無駄のない走行が実現しました。

又、社内で使用しているフォークリフト(6台)の燃料は、窒素酸化物(NOx)が少なく、硫黄酸化物(SOx)や煤煙がほとんど発生しない、クリーンエネルギーであるLPGにしています。

地域社会との交流活動

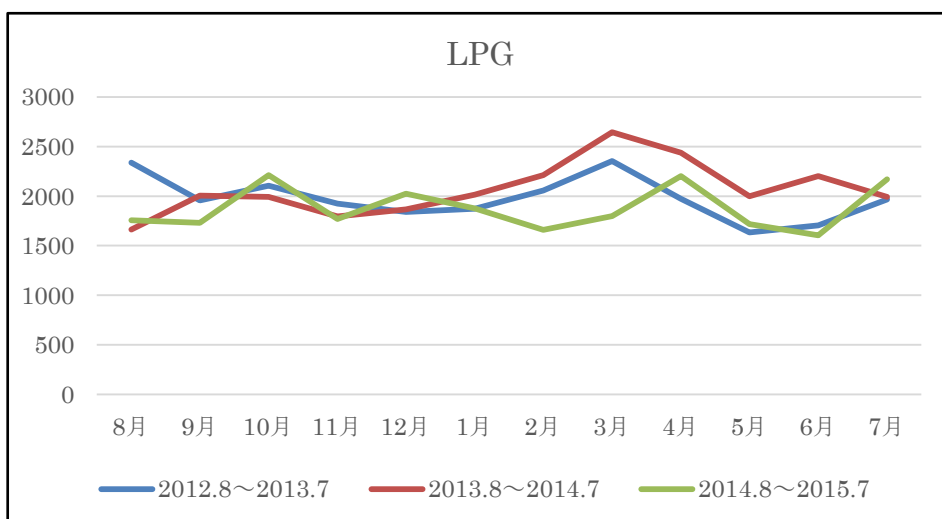
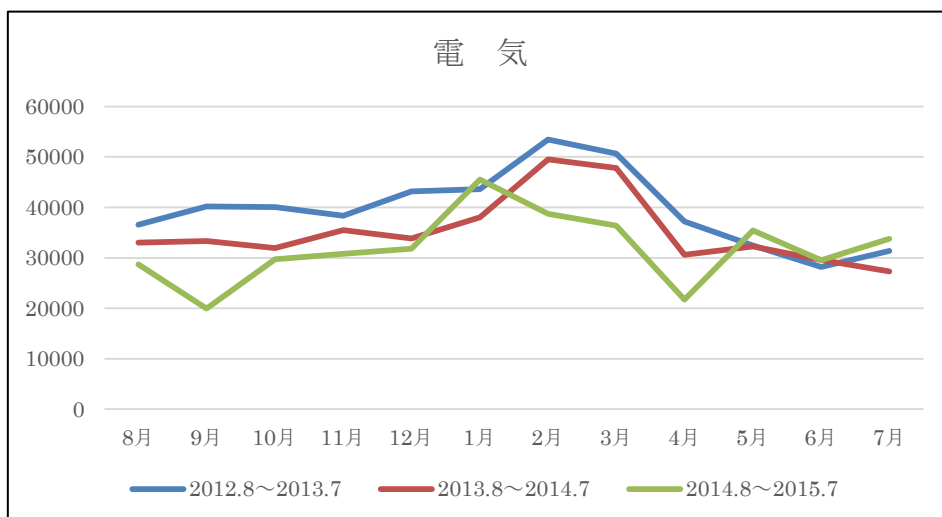
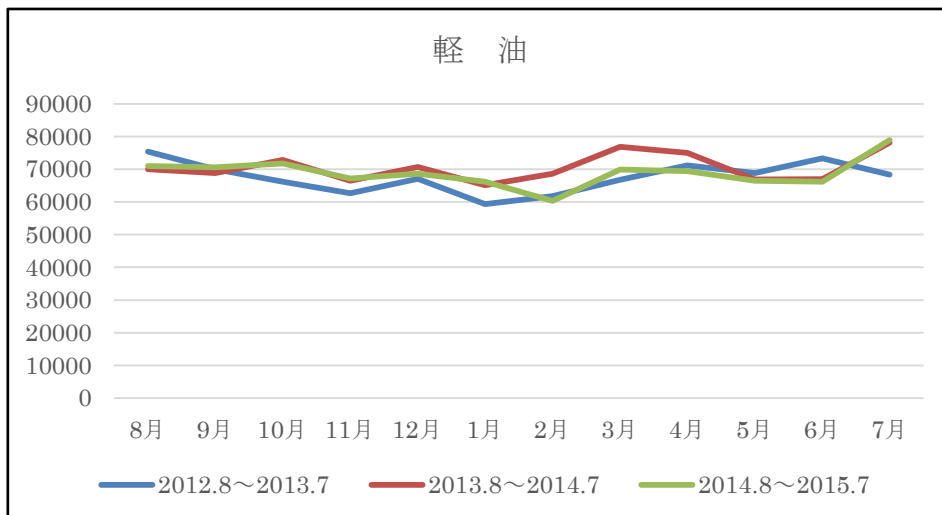
会社周辺の清掃作業(3回/年)を行っています。

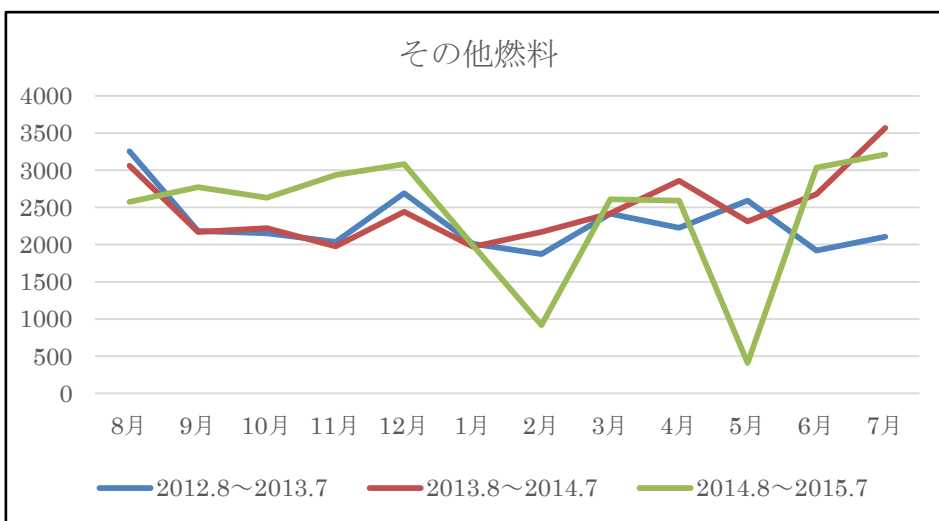
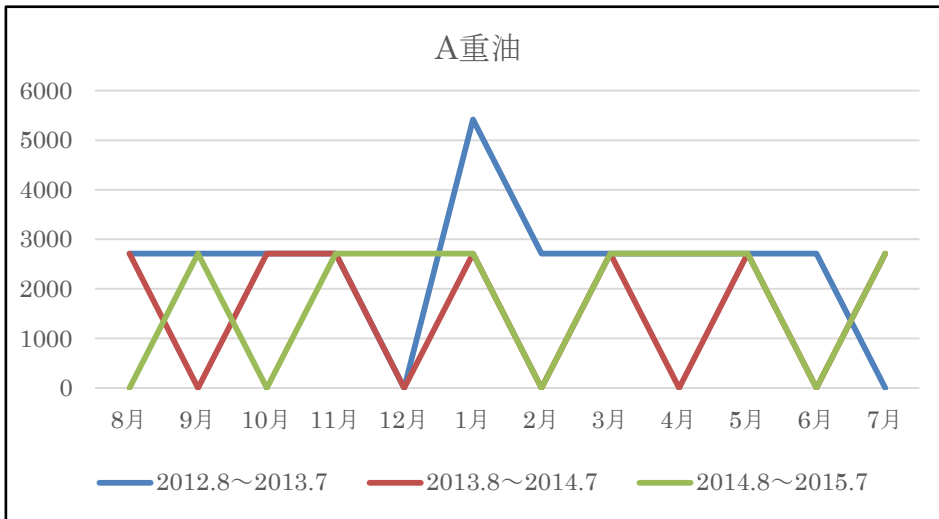
2015年の北九州マラソンについては、ファンラン参加は抽選に外れましたが、ボランティア活動で参加しました。



会社内で使用する燃料についてのCO₂排出量の把握

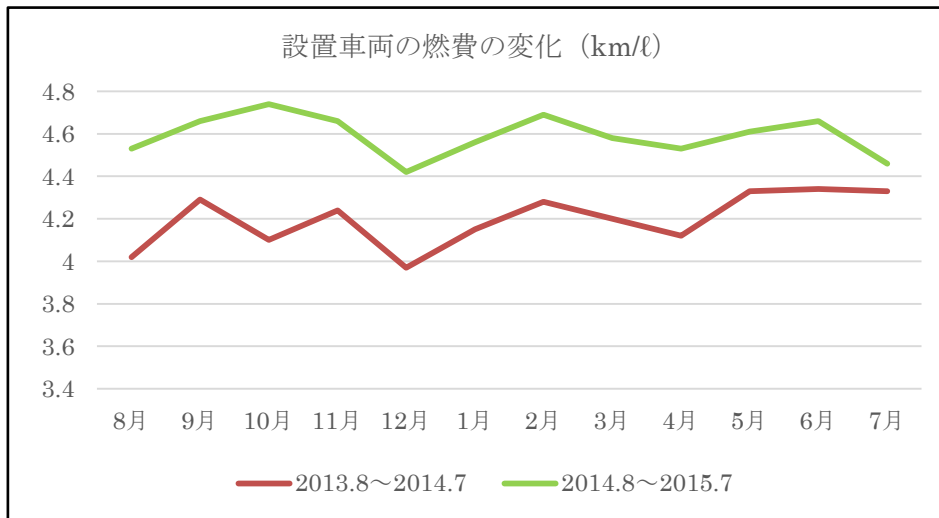
※単位はすべて kg/CO₂ です





※環境省の温室効果ガス排出量計算のための算定式及び排出係数一覧表による

2014年8月デジタルタコグラフ設置車両の燃費（30台）



デジタルタコグラフ設置後の車両について

30台の車両にデジタコを設置したため大きく燃費が上がりましたが、7月にはエアコン等の使用で燃費が大きく下がりました。現在のソフトでは自動車専用道の判別が難しく、〇〇バイパスといわれている道路が問題となっています。UPボタンを押し「何キロまでの走行だったらOK」という範囲を、グループ内で話し合いをしながら決定しています。また車両により車両のメーター計よりスピードが出ていると判断されることもあり、判断が難しい問題があります。

会社内に収集運搬グループ内での順位を掲示していますが、乗車する車両によっては車両の速度計と、デジタコの数値とあっていないという問題もありますが、デジタコを設置したことにより、運転手ひとりひとりの意識が走行について大きく変化しているようです。ゆっくりスタートや交差点では徐行という基本的なことを見直す結果になり、燃費の向上という環境にやさしい活動につながりました。

高齢化社会になり、福岡県でも65歳以上の高齢者のかかわる事故（加害者・被害者）が増加しています。環境に優しい運転イコール子供やお年寄りにも優しい運転へとつながれば良いと思っています。

従業員教育

外部教育（2014年8月から2015年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2014. 8. 27～29	玉掛け技能訓練	1名
8. 25～29	産業廃棄物又は特別管理産業廃棄物処理業の許可申請に関する講習会	2名
9. 19	副安全運転管理者講習	1名
9. 25～28	小型移動式クレーン運転技能講習	1名
10. 8～10	第一種衛生管理者受験準備講習	1名
10. 9	安全管理者講習	1名
10. 29	副安全運転管理者講習	1名
10. 30～10. 31	産業廃棄物処理業従事者能力アップセミナー	1名
11. 12	公正採用選考人権啓発推進印研修会	1名
11. 13	整備管理者選任後研修	1名
11. 19	AED技能講習	1名
11. 26	産業廃棄物ステップアップ研修会	1名
12. 11	北九州環境ビジネス推進会	1名
12. 17	年末年始安全会議	2名
1. 29	顧客先安全衛生・環境関連教育	1名
2. 6	水銀廃棄セミナー	1名
2. 10	北九州市産業廃棄物 3R 適正処理推進講習会	1名
2. 17	社会保険事務講習会	1名
2. 24	産業廃棄物協会防災研修会	2名
2. 27	フロン排出抑制法（法改正に基づく今後の取組み）	2名
3. 13	産業廃棄物ステップアップ研修会	2名
3. 17	北九州水素供給拠点形成連絡会議	1名
5. 21	熱中症予防セミナー	1名
6. 10	ドライブレコーダー映像を活用した交通事故防止研修会	1名
7. 15	関門・宇部海域排出油等防除協議会総会	1名

内部教育（2014年8月から2015年7月まで）		
年 月 日	内 容	参加人数
2014. 8. 9	誰もが危険 熱中症の新常識 フォークリフト作業の安全（DVD使用）	14名
9. 6	各工程別の管理内容の説明（MR事業部）	6名
9. 13	管理手順書による点検・作業の流れ（処理グループ）	4名
9. 18	顧客先の環境方針の周知（収集運搬グループ）	21名
9. 21	労働災害のない職場づくりに向けた安全推進者の配置に係るリーフレット（事務グループ）	5名
10. 4	水処理施設管理手順書改定による教育（処理グループ）	3名
10. 9	顧客先の荷降ろし手順の再教育（収集運搬グループ）	1名
10. 16	産廃情報ネット掲載する情報の確定方法（事務グループ）	1名
10. 16	顧客先の荷降ろし手順の再教育（収集運搬グループ）	21名
10. 18	荷降ろし時の指差呼称の確認作業（収集運搬グループ）	5名
11. 14	作業方法の変更に係る教育（処理グループ）	9名
11. 22	破碎機管理手順による点検・作業教育（処理グループ）	1名
12. 1	小型移動式クレーンの安全操作について（収集運搬グループ）	6名
12. 8	顧客先での事故事例についての教育（収集運搬グループ）	19名
12. 13	ボイラー管理手順の改定による教育（処理グループ）	2名
12. 20	顧客先構内手順の教育と安全講習（収集運搬グループ）	21名
12. 30	破碎機刃の交換手順書の妥当性の確認及び教育（MR事業部）	2名
2015. 1. 10	メンテナンス及び作業方法の確認（MR事業部）	5名
1. 17	顧客先構内手順の再教育及び安全講習	21名
環境に関する知識教育（全従業員対象）		
1. 31	消火栓取扱い説明及び消火訓練 津波想定避難訓練 （全従業員対象欠席者後日教育）	44名
2. 5	顧客先におけるルール遵守・安全・環境配慮について（収集運搬グループ）	17名
2. 7	粗大ごみ破碎機管理手順による点検作業教育（処理グループ）	2名
2. 28	手順書改定による破碎機固定ボルトの交換時期について（MR事業部）	5名
3. 14	AEDを用いた一次救命処置の流れ 荷卸し管理手順の教育 （収集運搬グループ）	17名

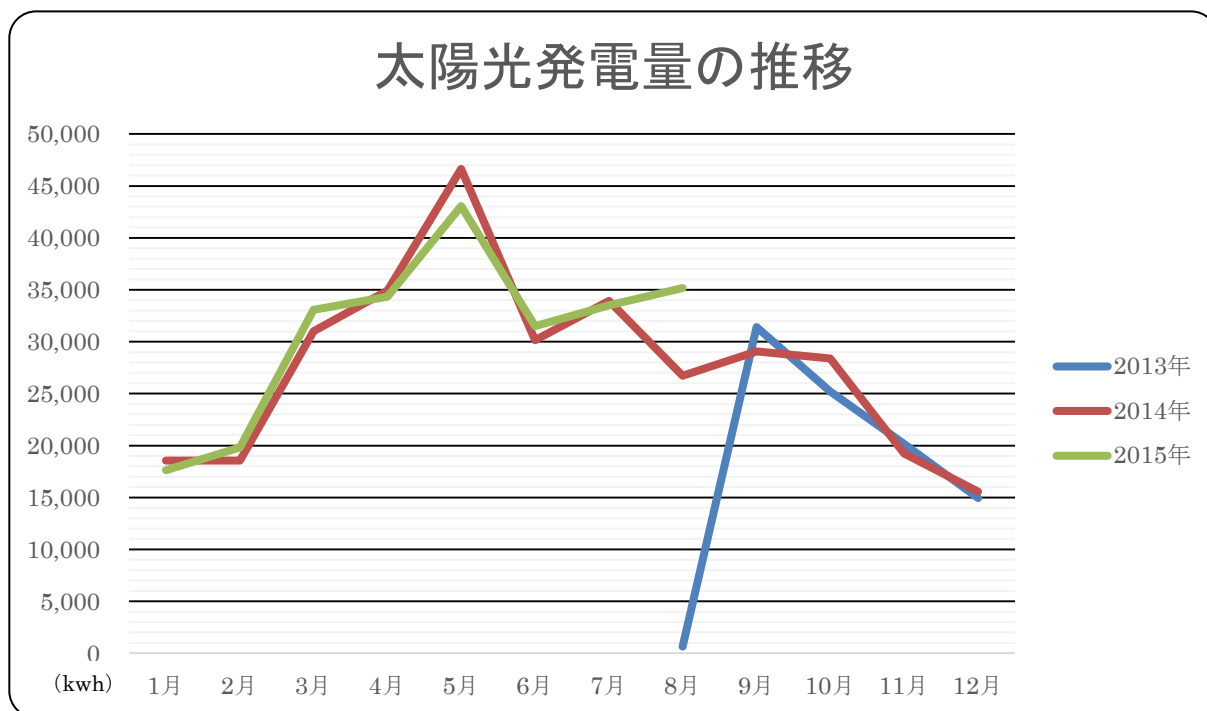
年 月 日	内 容	参加人数
2015. 4. 4	顧客先運行規制についての教育（収集運搬グループ）	19 名
4. 25	顧客先の環境事故、環境配慮について（収集運搬グループ）	16 名
5. 16	圧縮梱包機の手選別作業の再確認（処理グループ）	14 名
5. 30	顧客先構内ルールของ教育（収集運搬グループ）	17 名
6. 5	顧客先構内ルールของ教育（収集運搬グループ）	9 名
6. 1	新入社員教育	1 名
6. 8	新入社員教育	1 名
7. 1	新入社員教育	1 名
7. 23	産廃情報ネット入力方法についての勉強会	3 名

内部教育の状況



太陽光発電（イマナガ発電所）の状況

発電出力 306.0kW



太陽光発電の問題点

天候に大きく左右される事が一番だと思いますが、周辺の状況によりパネルにほこりが付き大雨が降らなければそのほこりがついたままになるため、パネルの洗浄をしなければなりません。洗浄の時期はパソコンに異常と表示されるのでわかります。

雨の日は発電量がかなり減りますが、パネルにとっては恵みの雨になります。

